

# 諫早市教育委員会議事録

平成30年第6回（5月定例）

# 平成30年第6回（5月定例）教育委員会

1 日 時 平成30年5月30日（水） 16時30分～17時30分

2 場 所 諫早市役所 7階 7-1会議室

3 出席者 教育長 西村 暢彦  
委 員 秀島 はるみ  
委 員 大石 竜基  
委 員 宮本 峻光

4 会議に出席した事務職員

教育次長	井上 良二
教育総務課長	田島 正孝
学校教育課長	福元 英典
生涯学習課長	藤山 誠治

5 議題

議案第11号 諫早市図書館協議会委員の委嘱について

議案第12号 全国学力・学習状況調査結果の取扱いについて

## 議事録署名人の指名

宮本委員と大石委員を議事録署名人に指名

## 議事の非公開

議案第11号は、人事案件であるため非公開

## 議事録の承認

- 平成30年第5回（4月定例）教育委員会の議事録について  
質問・意見なし  
原案どおり可決

## 教育長等の報告の要旨

### 1 教育長の報告

#### ○諫早市連合生徒会について

5月2日に市役所大会議室で諫早市連合生徒会を実施した。

「いじめ撲滅宣言文」の確認、各学校におけるメディア使用に係る約束などの情報交換を行った。

#### ○土橋貞恵翁祭について

5月9日に森山東小学校で「第152回 土橋貞恵翁祭」が開催され参加した。同校及び森山西小学校、森山中学校の児童生徒も参加して行われた。

森山中学校の生徒による劇の発表が行われ、とても素晴らしく感心した。

#### ○中学校体育大会について

5月13日に14校中13校の中学校で体育大会が行われ、長田中学校、諫早中学校、喜々津中学校を見学した。午後から雨の予報であったため、ほとんどの学校が午前プログラムを立てて実施された。

#### ○全国都市教育長協議会総会について

5月17日から18日に岩手県一関市で全国都市教育長協議会総会及び研究大会が開催され参加した。

総会のほか、文科省からの行政指導、研究発表及び分科会が行われ、全国

的な課題や実践について学べ、内容が充実しており勉強になった。

○小学校運動会について

5月27日に28校中20校の小学校で運動会が行われ、高来西小学校を見学した。好天に恵まれてよかった。他の8校は、9月30日に実施予定。

○菖蒲忌について

5月27日に、野呂邦暢氏を偲んで行われる菖蒲忌が諫早市美術歴史館で開催され参加した。

「野呂邦暢小説集成」全9巻の最終巻（9巻）がこの日に発刊されるということもあり、出版関係者、ご親族も参加されていた。

○子ども会の活性化について

5月31日に行われる諫早市自治会長会議にて、「子ども会の活動を自治会で応援しませんか」と呼びかけをする予定。内容については、次回の定例教育委員会で報告する。

《教育長の報告に対する質問・意見》 なし

2 教育次長の報告 なし

《 議 事 》

1 議案第12号 全国学力・学習状況調査結果の取扱いについて

学校教育課長説明

[委員]

学校別の調査結果を公表している都市はないのか。

[学校教育課長]

全くないと言われればそうでもないが、基本的には学校別は公表していない。なお、最近は正答率については、整数止めの公表や、全国平均と比べて+（プラス）、-（マイナス）表記にするなど、以前と比べて表し方がアバウトになってきている。しかし分析については、文言でかなり詳しい分析結果が出てきている。

[委員]

例えば、保護者から「うちの学校はどのくらいのレベルにあるのか」といって、ぜひ開示してほしいとの要望があった場合はどうするのか。

[学校教育課長]

公表しないと決めたならば、公表しない。その代わりに、この調査には個人票がある。個人票で本人の詳細な分析結果が出ているので、本人の分につ

いてはそれで見てもらうということで、学校の順位が明らかになるものについては公表しない。

[教育長]

本人の分というのがどのようなものか説明を。

[学校教育課長]

正答率と問題の特徴（例えば知識理解や思考力）の出来・不出来などの表記があり、最後に所見が付いている。

[委員]

保護者はどうしても自分の子どもはいい学校に通わせたいと思う気持ちが働きやすいところだと思う。

開示しないというのは、法的に根拠があるのかそれとも薄いのか。

[学校教育課長]

法的に詳しくは調べていないが、個人が不利益を被ることは避けられない。

[教育長]

本来、この学力・学習状況調査が何のためにあるかということ、調査の結果を今後の学校教育の指導に活かすためにやっているというのが目的なので、その分については公表する必要はない。学校が自校の実態を分かっただけで、例えば国語のこの部分が欠落している、算数の図形の部分は覚えていないなどということ把握し、今後の指導に活かすというのが本来の目的である。ただ、個々人のことについては、本人や保護者がどういった傾向にあるかということを知ることによって、自分の勉強によりよく活かしてもらえることもあって、個人ごとに結果を出している。しかし周りの人の要求が強いものだから、開示するということも出てきている。学力テストが始まった際に、最初は、いい点数を取らせるために勉強をさせるといった問題があり、そうしたことが起こらないために、次の指導に活かすためにも、国の方針でも開示すべきではないとされていたので、開示しないのが正しいと思う。

[委員]

そうであるならば、地域の序列化は出てくる。例えば、諫早地区の学力が低い、佐世保地区が高いと出たとして、佐世保地区から優秀な先生を諫早に配置するといったように人事に関して活かされることはないのか。

[教育長]

基本的には、指導法の改善である。人事までには至っていない。

[委員]

私立高校であれば、そもそも転勤が少ないので、例えば、自校で国語が弱いということであれば、他校の国語科の優秀な先生を連れてきて強化を進めるといった、中長期を見据えたやり方もできると思うが、公立というの

は、3年から5年で転勤があるので、弱点の補強というのは、指導方法だけで補うのは難しいのではないか。

[学校教育課長]

過去の事例として、英語がかなり弱く英語の指導者がほしい地区に、主になる英語の指導者が入るといったことがあった。ただし、ピンポイントでその学校に入るといったことではない。この学力調査の目的の最後には、「教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る」というのがある。なので、人事ということではなく、県の施策全体として進めていくということで、重点事項は県から出される。施策全体で県全体の課題を何とかしていこう対応を行っている。

[委員]

秋田県とか福井県は、人口が少ない小規模校が多い中で成績がいい。学校の先生たちが集まってどういう教え方をすれば子どもたちにすんなり入っていくかといった研修会を行っているようであるが、そういったことは行われていないのか。

[学校教育課長]

長崎県でも行われている。学力向上推進会議など当市の指導主事も入っているし現場の教師も入って、県下全体の課題に応じた授業研究とか取組の検証を行っている。昨年度は、本市では有喜中学校で英語の授業改善で、県下全体に広めるといったことをしている。

原案どおり可決

《教育総務課長の報告》

○平成30年度諫早市教育施策について

[委員]

「プログラミング教育」というのはどういったものか。

[学校教育課長]

主に算数、数学の分野と総合的な学習の時間で、自ら考えてパソコンに命令をして動かす(制御する)といった基本的な作業を行っていく。小学校では、ソフトを使って命令を下して図形を動かすといった簡単なもので、中学校では技術科を使って、かなり高度なテクニックで、ICTの先端を行くような活動を入れた授業を仕組んでいく。

[委員]

「子ども体験活動の推進」で「未実施小学校区への取組の推進」とあるが、具体的に子ども体験活動とはどういったものを指していて、未実施の小学校区とはどれくらいあるのか。

[教育総務課長]

各地区のPTAとか健全育成会が、子ども体験活動実行委員会を立ち上げてもらい、自然体験とか通学合宿とかを行っている事業で、15小学校区で実施されている。

[委員]

同じような活動は行っているけど、実行委員会を立ち上げるような形式をとっていないところはカウントしていないのか。

[教育長]

補助事業として行っていないところはカウントしていない。

《学校教育課長の報告》

○諫早市中学校総合体育大会について

《生涯学習課長の報告》

○平成30年度「少年の主張」諫早大会について

《非公開議事》

- 2 議案第11号 諫早市図書館協議会委員の委嘱について  
生涯学習課長説明  
削除  
原案どおり可決

## その他

教育総務課長

定例教育委員会の日程について説明

17時30分閉会